

## 年間授業計画

令和2年度・教科[地理歴史]・科目[地理A(必選A)] No. \_\_\_\_\_

学級又は班	3年全				
担当者					

単位数	使用教科書・教材
2	高等学校 地理A新版 第一学習社

教科・科目のねらい(目標)	①現代世界の特色と諸課題を取り上げ、地理的な見方や考え方を養う。 ②就職希望者が多いことを踏まえ、就職選考における一般常識分野に含まれる基礎・基本的な学習事項の定着を図る。 ③3学年自由選択科目であることから、課題研究なども取り入れながら、主体的に学習に取り組む姿勢や態度を育成していく。
---------------	--

学期	月	指導項目	指導内容	予定時数
1 学期	4	世界地理について	地図の見方 地球儀や地図でとらえる現代世界	8
	5	世界地理について	世界の人々の生活を取りまく地理的環境	8
	6	世界地理について	世界の諸地域の生活・文化と環境	8
	7	地球的課題について	私たちが直面する地球的課題	6
2 学期	9	日本地理について	日常生活と結びついた地図	6
	10	日本地理について	日常生活と結びついた地図	8
	11	日本地理について	自然環境と防災	8
	12	日本地理について	生活圏の地理的な諸課題と地域調査	6
3 学期	1	地球的課題について	南北問題 地球環境問題	6
	2	1年間の学習のまとめ	1年間のまとめ テーマ学習発表	6
	3			
年間予定授業時間数				70

評価の観点・方法	評価の観点は、1 地理的事象に対する意欲・関心 2 地理的事象に対する思考・判断 3 地理的事象に対する技能・表現 4 地理的事象に対する知識・理解 以上の4つを規準とし、学習内容に応じて重みづけをする。評価方法は、1 授業態度及び出席状況、2 課題への取り組みと提出状況等 3 テーマ学習(レポート等)やグループ学習等の成果、発表 4 確認テストの成績などにより、総合的に評価を行う。
----------	---

備考	
----	--

# 年間授業計画

令和4年度 教科[ 数学 ] 科目[数学Ⅱ ]

クラス又は班	3年1組	3年2組	3年3組	3年4組	3年5組	単位数	使用教科書・教材
担当者						4	新数学Ⅱ(実教出版)

教科・科目のねらい(目標)	数学Ⅰで培った、高校数学の基礎知識を基に高次方程式や因数定理が解ける。 円や直線の方程式を理解し、不等式の表す領域を図示できるようにする。 三角関数や指数・対数関数を理解し、微分積分の意味やいろいろな面積が出せる。
---------------	---

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定時数
1 学期	4	整式の乗法 因数分解 二項定理	乗法公式 因数分解の公式 パスカルの三角形	16
	5	分数式 複素数 2次方程式	分数式の乗法・除法 負の数の平方根、複素数の和・差・積・商 2次方程式の解、解の判別	16
	6	解と係数の関係 整式の除法 因数定理	解と係数の関係 整式の除法 剰余の定理、因数定理	16
	7	図形と方程式	内分・外分、円の方程式、領域	14
2 学期	9	微分係数と導関数	平均変化率、極限值、微分係数、	16
	10	導関数の応用	導関数、 $x^n$ の導関数、接線の傾き、関数の増加・減少、極大・極小関数の最大値・最小値	16
	11	積分の考え 面積	不定積分、定積分 面積	16
	12	三角関数 加法定理	一般角、三角関数、 $y=\sin\theta$ 、 $y=\cos\theta$ 、 $y=\tan\theta$ 加法定理、三角関数の合成、弧度法	14
3 学期	1	指数関数 対数関数	累乗根、指数法則 対数、対数の性質、対数の計算、常用対数	16
	2			
	3			

年間予定授業時間数	140
-----------	-----

評価の観点・方法	日常の授業に取り組む姿勢や、プリントやノートの提出物の状況を十分に把握し評価に反映させていく。(平常点) 授業の出席状況なども評価に反映させていく。(平常点) 習熟度別に分けて指導していくが、到達度や習熟の状況を判断するため、共通の試験を行い、その状況を評価に反映させていく。(習得点) 平常点と習得点とで総合的に評価する。
----------	---

備考	
----	--

# 年間授業計画

## 令和4年度 教科[理科] 科目[物理基礎]

№

コースは 班	3年必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	教科書「2東書312」・ ニューサート改訂物理基礎

教科・科目の ねらい(目標)	2年次で学んだ物理基礎と関連付けながら、昨年扱った項目をより深く、また割愛した項目は基礎基本から身につけることを目標とする。実験を条件を変え考察させることで、実験の基本的な態度を身につけさせる。また、自然現象を物理の観点から考える力を養う。
-------------------	--

学期(月)	指導項目	指導内容	予定時数
1 学 期	4 3章 波動	・オリエンテーション 波 定常波、音波	2
	5	・弦と管の振動、音階 ・気柱の共鳴	4
	6	・光、電磁波、放射線 ・レンズ、干渉と回折	6
	7 2章 熱	・確認テスト ・物質の三態、熱の移動と保存	3
2 学 期	9 2章 熱	・物質の三態、熱の移動と保存 ・熱と仕事、熱効率と不可逆変化	8
	10 1章 力と運動	・水平投射、斜方投射 ・力の合成分解、力のモーメント	4
	11 4章 電磁気	・様々な力、仕事、仕事の原理 ・運動エネルギー ・電場と電位、コンデンサーと半導体	8
	12	・学期末確認テスト ・ローレンツ力、ホール効果	3
3 学 期	1 4章 電磁気	・自己誘導、相互誘導、コイル、コンデンサー、リアクタンス	3
	2	・確認テスト	1
	3		
年間予定授業時間数			42

評価の観点・方法	毎時間の授業プリント(関心・意欲・態度)、授業中の課題等の取り組み内容や提出状況、確認テスト(知識・理解)や小テスト(知識・理解)の結果や出席状況、授業中の態度などを考慮しながら、総合的に判断する。エンカレッジスクールとして、特に授業に取り組む態度・姿勢及びプリントの提出状況を重視する。
----------	--

備考	
----	--

# 年間授業計画

## 令和4年度 教科[保健体育] 科目[スポーツⅡ]

No.1

クラス又は班	3年選択者					単位数	使用教科書・教材
担当者						2	現代保健体育・ニューカラスポーツ

教科・科目のねらい(目標)	球技の特性についての理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得できるようにするとともに、技能を発揮してゲームをすることができる資質や能力を育てる。
---------------	--

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定時数	
1 学 期	4	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技術の習得(パス、レシーブ、スパイク、など)</li> <li>・集団技能の修得(攻めの戦術、守りの戦術など)</li> <li>・フォーメーションプレイ</li> <li>・ゲーム</li> </ul>	24h	
	5	バドミントン			
	6	ソフトボール			
	7				
2 学 期	9	サッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人技能の修得(各種キック、パス、ドリブル、トラップなど)</li> <li>・集団技能の修得(攻めの戦術、守りの戦術など)</li> <li>・ゲーム</li> </ul>	24h	
	10	バレーボール			
	11				
	12	サッカー			
3 学 期	1	ハンドボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人技能の修得(パス、ドリブル、シュートなど)</li> <li>・集団技能の修得(攻めの戦術、守りの戦術など)</li> <li>・ゲーム</li> </ul>	22h	
	2				
	3				
				年間予定授業時間数	70h

評価の観点・方法	<p>以下の点を総合的に見て評価する。</p> <p>1) 授業への参加状況(欠席・遅刻・早退・見学など、少ないほうがよい)</p> <p>2) 授業中の活動状況(服装、態度、意欲、興味・関心、理解、安全、技術)</p> <p>3) 集団への協調・協力</p> <p>*決して技術的な面に偏ることはなく、各項目をバランスよく評価基準とする。</p> <p>*評価及び単位認定において、必修の体育は別の授業であり、一切関係しない。</p>
----------	--

備考	
----	--

# 年間授業計画

令和4年度 教科[ 必修選択A ] 科目[ 英語表現 I (必修選択) ]

No.

クラス又は班	3年					単位数	使用教科書・教材
担当者						2	SELECT English Expression I

教科・科目のねらい(目標)	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
---------------	---

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定時数
1 学 期	4	オリエンテーション 過去形	自己紹介 スピーキングとライティングの活動	4
	5	進行形 未来表現	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	8
	6	現在完了形 助動詞	リーディングとスピーキングの個別テスト ライティングとリスニングの活動	8
	7	1学期末確認テスト	1学期の復習	4
2 学 期	9	不定詞 動名詞	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	7
	10	受動態 分詞 関係代名詞	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	6
	11	比較 知覚動詞/使役動詞	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	7
	12	2学期末確認テスト	2学期の復習	5
3 学 期	1	3学年総復習	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	5
	2	学年末確認テスト	1年間の総復習	2
	3			

年間予定授業時間数	70
-----------	----

評価の観点・方法	定期的実施する試験・提出物・授業での日々の取り組みを評価の対象とする。 欠席・遅刻等が多い場合や授業態度が悪い場合は、マイナス評価とする。 関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の観点から総合的に判断して評価をつける。 リーディングとスピーキングはALTと1対1での個別テストを実施し、評価する。 リスニング、ライティングも実施し、評価の対象とする。
----------	--

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本に根ざした問題練習で確かな学力の定着を目指す。</li> <li>「学びなおし」による基礎をもとに、英検に対応できる力を育成する。</li> <li>自分の考えを伝えるため、ライティングの技術にも力を入れ、発展的表現方法を学ぶ。</li> </ul>
----	--

# 年間授業計画

令和4年度 教科[工業] 科目[環境工学基礎]

No.

クラス又は班	3必選					単位数	使用教科書・教材
担当者						2	環境工学基礎

教科・科目のねらい(目標)	工業の各分野における環境工学に関する知識と技術を習得させ、環境に関する調査、評価、管理などを活用する能力と態度を育てる
---------------	---

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定時数
1 学期	4	地球と人類	地球の成り立ち 地球上の資源 世界の資源と人間	30
	5	社会と環境	社会と環境の歴史 日本の環境政策	
	6	地球温暖化とエネルギー	地球温暖化とその影響	
	7	地球温暖化とエネルギー	エネルギーの利用技術と地球温暖化対策	
2 学期	9	廃棄物とリサイクル	廃棄物の現状 廃棄物の処理技術と管理	30
	10	地域環境の保全	大気汚染の現状と対策 水質汚染の現状と対策 土壌・地下水汚染の現状と対策	
	11	地域環境の保全 産業と環境	騒音・振動・臭気の現状と対策 産業界の環境管理の仕組み 環境リスクと安全管理の取り組み	
	12	産業と環境	省エネルギーの取り組み 廃棄物処理とリサイクルの取り組み 大気・水環境保全への取り組み	
3 学期	1	都市と生活環境	都市システムと環境 住環境と健康	10
	2	都市と生活環境	環境保全に向けた様々な取組	
	3			

年間予定授業時間数	70
-----------	----

評価の観点・方法	それぞれの授業項目に従って、基礎的な知識を理解、習得しているかをみるため必要に応じ、授業中に小テストを行う。それによって、理解の程度を推し量り、難易について考慮する。 工業の各分野における環境工学に関する知識と技術が習得できたか、環境に関する調査、評価、管理などを活用する能力が身についたか、環境に関して興味・関心を持つことが出来たか。また、積極的な態度で授業に臨んでいたかなどを総合的に判断し評価をする。 1学期期末、2学期期末、3学期学年末に学力確認のための考査を行い評価の対処とする。
----------	---

備考	
----	--

# 年間授業計画

令和4年度 教科[工業(キャリア技術)] 科目[ 必修選択A 電子機械 ]

No.

クラス又は班	必選A					単位数	使用教科書・教材
担当者						2	電子機械【工業321】

教科・科目のねらい(目標)	電子機械する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力・態度を育てる。 電子機械に利用されているセンサやアクチュエータ、シーケンス制御をわかりやすく学習させ、工業のさまざまな分野で活用し、創意工夫力を養い、ものづくりに取り組む態度を身に付けさせる。
---------------	--

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定時数
1 学 期	4	1. 電子機械と産業社会 ①身近な電子機械	メカトロニクスとは何かを理解させ、電子機械の概要を把握させる。 デジタルカメラ、自動洗濯機、自動車、ビルや工場、医療・介護等での電子機械の利用について理解させる。	17
	5	2. 電子機械と生産ライン 3. 電子機械の構成と必要な技術	工作機械のメカトロニクス化や工場の自動化、NC工作機械や産業用ロボット、自動倉庫システムなどの概要を理解させる。 電子機械の構成と関連する技術について理解させる。	
	6	4. 機械の構成と運動の伝達方法の概要	機械の運動と機械を構成する機械要素の種類およびリンク機構やカム機構などについて種類や特徴を理解させる。	
	7			
2 学 期	9	5. センサとアクチュエータの基礎	身近なセンサを例にあげ、物理量や機械量、温度、光などのセンサの種類と特徴を理解させる。	19
	10	①身近なセンサと各種センサ	デジタル信号とアナログ信号、変位センサ、ひずみゲージ、マイクロスイッチ、光センサ、温度センサなどを理解する。	
	11	6. アクチュエータの基礎	アクチュエータについて概要を学び、種類や用途を理解する。 トランジスタ、サイリスタ、リレー、ソレノイド、モータなど	
	12	7. シーケンス制御の基礎	自動制御の定義およびその種類と特徴を理解させる。 シーケンス制御用機器の働きと図記号を理解させる。	
3 学 期	1	7. シーケンス制御の基礎	自動制御の定義およびその種類と特徴を理解させる。 シーケンス制御用機器の働きと図記号を理解させる。	7
	2			
	3			

年間予定授業時間数	43
-----------	----

評価の観点・方法	各授業ごとのプリント等の取組状況、出来具合 ノートの板書状況及び提出 テストごとの内容・取組状況 出欠席状況及び日々の取組状況 各学期末におこなう確認テストの状況の出来 以上を総合的に判断して評価する。
----------	--

備考	
----	--

# 年間授業計画

令和4年度 教科[ 工業 ] 科目[必修選択 プログラミング技術]

№

クラス又は班	3年					単位数	使用教科書・教材
担当者						2	実教出版 プログラミング技術 新訂版

教科・科目のねらい(目標)	1. プログラミング技術の基礎的な知識と技術を習得する。 2. 順次型、選択型、繰り返し型のアルゴリズムの処理手順を理解し、プログラミングを作成する。 3. 関数という考え方を通して、プログラム作成することの利点を理解し、プログラミングを作成する。
---------------	--

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定数	
1 学 期	4	プログラム開発の手順	システム開発とプログラム開発 文書化	30	
	5	プログラム開発環境	基本ソフトウェア プログラム言語 コンパイルとリンク		
	6	基本的なプログラム	Cの基本的な知識 入出力 演算子		
	7	1学期の復習	デバッグ 1学期の課題、章末問題		
2 学 期	9	プログラムの制御構造 配列とポインタ	条件分岐 繰り返し 配列	30	
	10	関数	文字列 ポインタ 関数の概念		
	11		関数の基本 プリプロセッサ 変数の有効範囲と記憶域クラス		
	12	2学期の復習	アドレスを渡す関数 アルゴリズム 2学期の課題、章末問題		
3 学 期	1	応用的プログラム 3学期の復習	データ構造 ファイル処理 3学期の課題、章末問題	10	
	2				
	3				
				年間予定授業時間数	70

評価の観点・方法	各授業または単元毎のプリントの取組状況 プログラム課題の完成状況 単元毎のまとめテストの出来具合の状況 出欠状況及び日々の取組状況 以上を総合的に判断して評価する。
----------	--

備考	
----	--



## 年間授業計画

令和3年度 教科[工業] 科目[インテリアエレメント生産]

No. 1/1

クラス又は班	3年必選					単位数	使用教科書・教材
担当者						2	インテリアエレメント生産

教科・科目のねらい(目標)	インテリアエレメントに関する専門知識を学ぶ。 インテリアエレメントに関する生産技術を学ぶ。 共同作業を通して、コミュニケーション能力を高める。
---------------	---

学期	(火)	指導項目	指導内容	予定数	
1 学 期	4	インテリアエレメントの基礎知識	・インテリアエレメントの基本事項について学ぶ	30	
	5	インテリアエレメントの製作過程及び素材研究	・生徒が要素を取り上げ、その要素の製作過程を研究する。 ・取り上げた要素の素材研究をする。(1課題目)		
	6 ①	インテリアエレメントの製作	・取り上げた要素を実際に製作する。(1課題目) カトラリー		
	7 ①	インテリアエレメントの製作	・取り上げた要素を実際に製作する。(継続)		
2 学 期	9 ②	インテリアエレメントの製作	・取り上げた要素を実際に製作する。(2課題目) 玩具	30	
	10 ②	インテリアエレメントの製作	・取り上げた要素を実際に製作する。(継続)		
	11 ③	インテリアエレメントの製作	・取り上げた要素を実際に製作する。(3課題目)		
	12 ③	インテリアエレメントの製作	・取り上げた要素を実際に製作する。(継続)		
3 学 期	1	プレゼンテーション	・色彩の感情効果、影響について学ぶ。 ・製作した作品を講評する。	10	
	2	プレゼンテーション	・作品の整理とプレゼンボートの製作		
	3				
				年間予定授業時間数	70

評価の観点・方法	① 授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度) ② 取り組み(技能・到達度・創意工夫など) ③ 提出物(作品)
----------	---

備考	
----	--